

付録ワークシートを用いた本書の活用手法

— アクティブラーニング型・活動型授業実践での使用方法 —

従来の教室では、教師によって準備された文章や練習問題を学習者が授業内で解き、解説を聞くというのが一般的で、発展のための課題や活動は残った時間や授業外で行うのが主流でした。しかし近年、教室内外の役割を反転させる「反転授業」の効果が指摘されるようになり、「アクティブラーニング」として、学習者が受動的ではなく能動的に取り組むための活動を授業の中で設計する考え方が広がっています。また、本書のように本文を用いた読解活動を含む教育においては「ピアリーディング」によって、個人の読みを共有することでテーマについての理解を深める効果も指摘されています。

このことから、本書では、レッスンごとに6種類のワークシートを用意することでアクティブラーニングをサポートし、さらに、本文の読解ではピアリーディング(プロセスリーディング、ジグソーリーディング)というスタイルの学習活動が行えるようになっています。学習者の興味関心に合わせてアクティブラーニングを取り入れた授業を実践することが可能です。また、読解活動に関しては、クラスのサイズや理解度に合わせて、三つの活動のいずれかを選択していただくことも可能ですし、複数の学習活動を組み合わせて実施していただくことも可能です。

ワークシートは本書を刊行する凡人社の公式Webサイトで公開されています(https://www.bonjinsha.com/wp/kagakunotoi_2) ※本ページ下部のQRコードよりアクセスしていただくことも可能です。ここでは、それぞれの活動の狙いと手順を解説します。創造的な授業活動をデザインする際のサポートとして、本書と合わせワークシートを活用していただければ幸いです。

アクティブラーニング

急速なグローバル化や日本の国際化の進展、少子高齢化、疫病や災害の発生、紛争や差別、環境問題の深刻化といった社会構造の変化や多くの課題に対し、私たちは教育機関で学んだ知識を自らアップデートし他者と共同で国や地域の枠を超え課題解決に取り組む必要があります。このような時代において、学習者が能動的に学ぶことを支援する「アクティブラーニング」の重要性が様々な分野で再認識されるようになっていきます。

このことから本書では、各レッスンの内容について、学習者が自ら調べ、授業の中で意見交換を行うことで考えを深めていくことを目的とした「アクティブラーニング用ワークシート」を全てのレッスンに設けました。本ワークシートを使って、本文を読んだ後に教室で発展的な活動を実施していただくことも可能ですし、発表やレポート執筆などの前段階の活動に活用していただくことも可能です。また、教室外で本文を読む際には、凡人社の公式Webサイトに掲載されている「語彙・文法学習ワークシート」と合わせて活用していただくことで、学習者がわからなかった言葉や表現をリスト化して授業に持ち寄り、学び合ったり教師からの解説を受けたりすることができるようになっています。さらに、授業の冒頭や末尾において「語彙・文法復習用クイズ」を用いれば、言語知識に関する理解度を測定することもできます。



練習用クイズ・付録ワークシート・解説動画の無料配信

各レッスンで学んだ言葉や表現の定着を図るための練習用クイズや音声教材、アクティブラーニングを行うためのワークシート、そして、読解にピアリーディング活動(プロセスリーディング、ジグソーリーディング)を取り入れるためのワークシートなどを無料配信しています。また、それらのデジタル副教材と本書とを連携させて使用するための解説用PPTスライドや教え方の解説動画も公開されています。凡人社Webサイトよりダウンロードしてご利用ください。



ICT(通信技術を活用したコミュニケーション)を用いた日本語学習が活発化している状況に合わせ学習用のアプリケーションやオンライン教材の紹介も凡人社公式Webサイトを通して行います。

それらの利用にはタイピングを用いたテキスト入力が必要となりますが、漢字語彙の読み方がわからなければスムーズな入力はできません。そこで、難しい読み方を持つ漢字語彙に注意しながらタイピングするための「タイピング練習用ワークシート」も用意し、漢字語彙の発音に注意を向けたテキスト入力のトレーニングができるようになっています。



活動型授業実践 (ピアリーディング)

本書では、教科書の内容をもとに他者と対話したり協働したりする授業のことを「活動型授業」と呼んでいます。活動型の授業の一つとして、協働学習(ピアラーニング)が挙げられます。読解教育においては、一人で読み理解して終わらせるのではなく、他者の読みと付き合わせ意見を交換することで、さらに理解を深める「ピアリーディング」、「クリティカルリーディング」という手法があります。(理論的背景や考え方については、館岡編(2015)を参照のこと)。本書では、学習者が意見交換を行いながら理解を深める活動を行うための以下の2種類のワークシートを用意しました。

「プロセスリーディング」用ワークシート

プロセスリーディングとは、一つの文章全体を、意見交換を行いながら読み進めていく手法を指します。本文を一度読み、本文の大意把握をした上で、再度、ペア(またはグループ)に分かれて話し合いながら「プロセスリーディング用ワークシート」を使って理解度を確認します。ワークシートの設問に答えるために本文全体を読み直し、話し合いによって本文の理解を深めることを想定した活動です。



「ジグソーリーディング」用ワークシート

ジグソーリーディングとは、本文をいくつかの部分に分け、それぞれの担当部分について一人で読んで理解した上で、それを持ち寄ることで全体の構成や内容を確認するという読み方です。まず本文全体を小見出し(意味段落)で区切り、それぞれの担当部分の読解プロセスを「ジグソーリーディング用ワークシート」に書き込み、書かれている内容を説明するための準備をします。その上で、部分を持ち寄ってお互いの説明を聞くことで、全体を理解する活動を行うことができます。具体的な活動の手順を次頁にて詳しく紹介します。



本書準拠教材『書き込み式』表現するための語彙文法練習ノート(下) 一語 / 慣用句 / コロケーション / 文型 / 文法 / 構文』(凡人社)

本書は一冊の独立した教材としてもご利用いただけますが、本書で学んだ言葉や表現をさらに発展させて学びたい方のために、文字、語彙、コロケーション、文型、文法、類義表現に着目した言語トレーニングができる本書準拠教材も刊行されています。日本語能力試験N1合格とその先を目指す方や、アカデミックジャーナリズムの力をより強化したい方、コミュニケーション力育成のための言語トレーニングをさらに積み重ねたい方はご利用ください。



各ワークシートを活用した授業活動の手順を以下に示します。
ワークシートは凡人社公式Webサイトから、無料でダウンロードすることができます。

1 アクティブラーニング用ワークシートを使用した授業活動の流れ (×3コマ)

- | | |
|----------|--|
| 1
コマ目 | <ol style="list-style-type: none"> 各レッスンのテーマについて本書のLABCAST(博士とアイとリクとによる研究室での会話=LABでの会話)を用いた導入を行う。 本文を読み、わからなかった表現を「語彙・文法学習ワークシート」に記入する課題を出す。 |
| 2
コマ目 | <ol style="list-style-type: none"> 授業の中で「語彙・文法学習ワークシート」を持ち寄り、グループで話し合いと確認を行う。不明点についてはクラス全体で共有し本書の語彙説明もしくは手持ちの辞書などで調べる活動を行う。必要に応じて教師が解説を行う。 本書の練習問題を使って本文の理解確認を行い、「アクティブラーニング用ワークシート」を配布する。本ワークシートの【発展活動】のQ1(調べ学習)を課題として出す。 |
| 3
コマ目 | <ol style="list-style-type: none"> 各自が調べた情報を持ち寄り、授業のグループ活動の中で情報交換を行う。話し合いの内容をQ2に記述し、話し合いについての自己評価を「活動後に記入」の欄に記入する。 結果報告レポート(書式自由)などの課題を出し、提出物について教師から個別にフィードバックを行う。(課題の量については、授業時間数によって調整する) |

POINT 語彙文法の知識を確認しながら、読解へとボトムアップで展開する進め方です。いずれの段階でも、まずは学習者の既有知識を提示してもらうことを心がけ、それに対して他の学習者や教師からフィードバックするという流れをつくと教室の話し合いが活性化します。

2 アクティブラーニング用ワークシートを使用した授業活動の流れ (×2コマ)

- | | |
|----------|--|
| 1
コマ目 | <ol style="list-style-type: none"> 「プロセスリーディング用ワークシート」あるいは「ジグソーリーディング用ワークシート」を使った活動を行う(右ページを参照)。 「アクティブラーニング用シート」を配布する。本ワークシートの【発展活動】のQ1(調べ学習)を次回までの課題として出す。 |
| 2
コマ目 | <ol style="list-style-type: none"> 各自が調べたことを持ち寄り、授業のグループ活動の中で情報交換を行う。話し合いの内容をQ2に記入し、話し合いについての自己評価を「活動後に記入」の欄に記入する。 結果報告レポート(書式自由)などの課題を出し、提出物について教師から個別にフィードバックを行う。(課題の量については、授業時間数によって調整する) |

POINT トップダウンで進める方法です。活動しながら必要に応じて、本文の理解や言語知識を確認します。学習者の日本語レベルによっては、学期の前半はボトムアップで進め、後半からトップダウンで行うなど活動を組み合わせることで、難易度を上げていくこともできます。

3 プロセスリーディング用ワークシートを使用する場合 (×2コマ)

- | | |
|----------|---|
| 1
コマ目 | <ol style="list-style-type: none"> 各レッスンのテーマについて導入活動を行い、本書のLABCASTを確認する。 「プロセスリーディング用ワークシート」と「語彙・文法学習ワークシート」を配布し、本文を読んで「プロセスリーディング用ワークシート」の設問に答える課題を出す。ワークシートにある「読むこと」の「予習段階」について自己評価を記入して頂くこと。また、わからなかった表現は「語彙・文法学習ワークシート」に記入して頂くことを指示する。 |
| 2
コマ目 | <ol style="list-style-type: none"> 授業の冒頭で、グループまたはペア分けを行い、「語彙・文法学習ワークシート」について話し合いと確認を行う。不明点についてクラス全体で共有し、必要に応じて教師が解説する。次に、本書の練習問題を使って本文の大意を確認する。 記入してきた「プロセスリーディング用ワークシート」について、各学習者の回答を共有し、その根拠を本文から説明するための話し合いを行う(話し合いの目的は、設問への回答を確認しながら本文をもう一度読み、自分の考えを深めること)。 話し合いの結果についてクラスで確認し、教師からのフィードバックを行う。「授業段階」「クラスの話し合いから考えたこと」を記入した上で、「次の授業のために」に自分の考えをまとめてもらう(授業内で提出、あるいは次回までの課題とする)。 提出されたワークシートについて、教師から個別にフィードバックを行う。 |

POINT 読解部分の理解確認を学習者の話し合いを中心に進める方法です。ワークシートを確認する話し合いの際には、ただ回答内容をチェックするのではなく、根拠や関連情報などを加えながらお互いの読みをすり合わせ、理解を深めることが目的であることを説明してから実施します。何のために話し合うのかを明確に示すと活動がうまく展開します。

4 ジグソーリーディング用ワークシートを使用する場合 (×2コマ)

- | | |
|----------|--|
| 1
コマ目 | <ol style="list-style-type: none"> 各レッスンのテーマについて導入活動を行い、本書のLABCASTを確認する。 「ジグソーリーディング用ワークシート」と「語彙・文法学習ワークシート」を配布する。クラスサイズに合わせてグループ分けを行う。グループの中で、担当部分を決め、担当箇所をシートに記入する。全体を読んだ上で、担当箇所について「ジグソーリーディング用ワークシート」に記入する課題を出す。また、わからなかった表現は「語彙・文法学習ワークシート」に記入して頂くように指示する。 |
| 2
コマ目 | <ol style="list-style-type: none"> 授業の冒頭で、前回と同じグループで「語彙・文法学習ワークシート」について話し合いと確認を行う。不明点についてクラス全体で共有し、必要に応じて教師が解説する。次に、本書の練習問題を使って大意を把握する活動を行う。 記入してきた「ジグソーリーディング用ワークシート」について、グループの中で発表し、意見交換を行う(話し合いの目的は、それぞれの担当箇所について本文の内容を再度確認しながら、お互いの理解の共有を行うこと)。 話し合いの結果について、全体で発表してもらい、教師からのフィードバックを行う(発表の際は、複数のグループに発表してもらって、グループ間での違いが明らかになり、クラス全体でそれぞれの理解度を確認することができる)。他のグループの発表を聞いて、加筆したい部分、修正したい部分を自分のワークシートに赤ペンで書き込むように指示し、授業後に提出してもらう。 提出されたワークシートについて、教師から個別にフィードバックを行う。 |

POINT 読んだ部分を持ち寄ることで、全体を完成させるための話し合いをする方法です。読んだ部分について説明するときに、口頭だけでなく内容をまとめたスライド資料を作ってもらったり、タスクの難易度を変えることでクラスの学習者の日本語レベルに応じた形で話し合いを活性化することができます。前後の流れを意識し説明してもらうことで、全体の論理構成を確認することも可能です。